敦賀市立博物館友の会

令和３年９月 第96号

博物館友の会だより

題字：千葉半厓

文化財ニュース

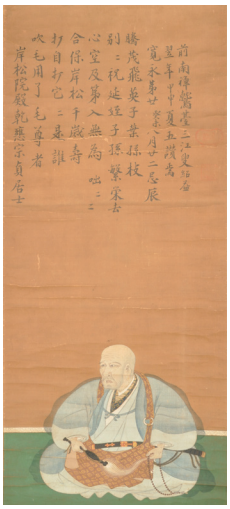
敦賀市内の絵画２件が県指定文化財に

敦賀市内の絵画二件が令和３年９月に県の指定文化財に指定されました。

内一件は当館が所蔵する「仙人高士図」です。鶴を伴った林和靖（りんなせい）、瓢箪から出た駒を見る張果老（ちょうかろう）、鯉の背に乗る琴高仙人（きんこうせんにん）、風に吹かれる列子（れっし）、乞食姿の鉄拐仙人（てっかいせんにん）、釣り糸を垂れる太公望（たいこうぼう）らの者達が減筆された筆致で描かれています。各図に「橋本」と読める印が押してあり、これより作者が敦賀の鷹画師として知られる初代橋本長兵衛と分かります。仙人図は桃山時代によく描かれた画題ですが、同時代の有名絵師・海北友松のいわゆる「袋人物」と呼ばれる人物画の作風とよく似ており、その影響を受けている事が如実にわかる点も価値が高いと評価されました。

紙本墨図 仙人高士図　６幅
初代橋本長兵衛筆　館蔵

もう一件は江戸時代初期の敦賀の豪商を描いた「打它宗貞像」です。打它宗貞は飛騨高山の城主・金森長近のもとで鉱山奉行として活躍し、慶長十三年（一六〇八）に敦賀に来て財を成しました。また息子の公軌は京都で活躍し俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」を発注したと言われる歌人であるなど、歴史的にも何かと話題の尽きない人物の、大変優れた肖像画です。江戸時代初頭の豪商の肖像画としても伝存例が少なく貴重です。



絹本著色 打它宗貞像
１幅　個人蔵

文化財プチニュース

敦賀市立博物館 HP を開設してます！

博物館のホームページを新たに開設しております。博物館の概要や展示予定などもこちらでチェックできます。下記アドレスにアクセスよろしくお願いします。

https://tsuruga-municipal-museum.jp/

天狗党仄聞―一人の女性のこと―

友の会会長　川村　俊彦

過日の特集展示「天狗党～武田耕雲斎からの手紙～」は興味深く観覧した。また、これに併せて市内の関連史跡を廻る天狗党ウォーキングにも参加したのだが、なにせ酷暑の折とて、すっかりへばった私、危うく熱中症で救急車のお世話になるところであった。

閑話休題、三年前に開催された特別展「水戸天狗党敦賀に散る」はまだ記憶に新しいが、その後、博物館の研究紀要三三号に『水戸脱士擾亂記』釈文（坂東佳子二〇一九）、同じく三四号に『都築荘蔵「北行日録」』に関する論考（仙波ひとみ二〇二〇）が相次いで掲載され、こうした研究を踏まえて企画された今回の展示は一段と見応えがあった。前者は天狗党に関する小浜藩の一連の記録（酒井家文庫蔵）、後者は宇和島藩京都周旋方による天狗党越前入りに関する情勢探索の記録（宇和島伊達文化保存会蔵）である。都築荘蔵とは謂わば伊達家の特派員で、一橋慶喜の配下で連絡調整に動いていた渋澤成一郎と接触したことなども記されている。

ところで、私は数年来、女性史を学ぶ機会が増え、延いては天狗党の市毛みゑという女性に関心を持った。行軍の隊列には当初多くの女性が加わり、中には乳飲児を抱いた母親もいたが、彼女らは途上で離脱を余儀なくされ、敦賀まで辿りついたのは、隊士である夫と息子に同行したみゑ一人であった。

興味を持ったきっかけは、敦賀市史研究３号（一九八二）所収の『元治義士新聞記（下）水戸浪士實録』の「浪士名籍並歳齢付」の欄に「市毛源七母みゑ年五十七才」とあり、その後、吉村昭著『天狗争乱』の作中、かなりの紙幅を割いて描かれたみゑという人物像に好感を抱いた。女たちの中で年長ということもあって何くれと他人の世話を焼き、傷病者の看護を買って出る、しかし分を弁えて驕ることのない、そんな女性である。

そして最近、上述の『水戸脱士擾亂記』釈文を勉強していたところ、「一浪士入獄名前」に記された一覧の「四番土蔵」に「みゑ」の名を見つけた。この四番土蔵は「此分病気ニ付長遠寺ニ残居二月朔日入獄致ス」と注記がある通り、浪士たちを収監した一八棟のうちでも病人専用の棟で、看護にあたるみゑを含み四二名が収容された荷蔵である。なお、このうち四名は獄中で病死している。

如何様、史料に忠実なことで定評のある吉村昭の描いたとおり、みゑの人物像はおそらく実像に近いものだったに違いない。

ちなみに山本元の『敦賀郷土史談』には、故老からの伝聞として、永覚寺の白洲に向かうみゑには足枷はなく、風呂敷包みを大切そうに抱えていたとある。想像するに病死者から託された形見の品ででもあったろうか。

みゑは、お咎め無しとして水戸藩に引き渡され送還されるが、帰るや否や投獄され、病に臥して出牢後間もなく不帰の客となる。敵対する門閥派が支配する水戸では、天狗勢に加担した者への扱いは冷酷であった。

天狗党で唯一人、敦賀まで来た市毛みゑという女性について、ここでは興味の赴く儘、仄聞するところを認めたが、今後も機会があれば勉強を重ね、知見を深めていきたいと思う。今回、史料に触れる機会を与えてくれた坂東学芸員に感謝申し上げたい。

○令和3年度後半展示と行事の案内

■二・三階展示室

特別展　古写真が語る敦賀

うつりゆく「大敦賀」のまちなみ

～十月五日（火）まで

博物館に集められた古写真を展示してます

▼特別展記念ワークショップ

○オリジナル絵葉書を作ろう○館内スタンプラリー○古写真ぬりえ○古写真パズル

▼記念イベント（ウォーキング）

・金ヶ崎周辺を歩く編 ※ムゼウム前駐車場集合

九月十二日（日）午前十時～十二時頃

・西浦海岸を歩く編 ※花城駐車場集合

九月二十六日（日）午前十時～午後二時半頃

各回要申込　定員十名　参加料二〇〇円

・友の会会員様限定ウォーキング

気比神宮周辺の古写真を巡る編

※博物館駐車場集合

十月二日（土）午前十時

要申込　定員十名　参加料無料

「俳句・俳諧資料と川上季石コレクション」

十月八日（金）～十一月九日（火）

館蔵の俳諧資料と俳人・故川上季石氏の俳句資料コレクションを展示します。

「吉川コレクション」（仮題）

十一月十日（水）～十二月七日（火）

古美術コレクションを展示します。

■二階展示室

考古学速報展「公文名発掘資料」（仮題）

十二月八日（水）～三月十五日（火）

公文名で発掘された出土品を展示します。

■三階展示室

「寄贈絵画公開展」（仮題）

十二月八日（水）～一月十六日（日）

寄贈の近現代の絵画を主に展示します。

「夷子大黒綱引き衣装展」

一月七日（金）～一月十六日（日）

重要無形民俗文化財「敦賀西町の綱引き」の時期に、古式ゆかしい衣装を展示します。

「刀剣資料公開展」

一月十八日（火）～三月十五日（火）

当館所蔵のものに加え、新たに寄託された刀剣など関連資料を展示します。

■一・二階展示室

常設展示「敦賀を彩る歴史と文化」　通年

常設展では、特別展等の期間を除き一～二か月の間隔で一部のコーナーを入れ替えながら常設展示をしています。

○令和3年度後半行事の案内

「第十九回　吉継カフェ」

大谷吉継について歴史講演会を致します。

十二月四日（土）午後一時半～

場所　プラザ万象小ホール

講師　奈良大学教授　外岡慎一郎氏

「令和3年度友の会記念講演会」（詳細未定）

「天狗党（仮題）講演会」

講師　宇和島伊達文化保存会

仙波ひとみ氏（詳細未定）

☆☆友の会役員・スタッフの募集☆☆

十二月四日（土）の歴史講演会でイスを並べたり受付や検温などのお手伝をお願いする友の会ボランティアスタッフ募集中です。ご興味のある方は事務局（25-7033）までお問い合わせください。

友の会活動報告

～天狗党ウォーキング～

友の会事務局長　面　隆史

天狗党西上の終焉地「敦賀」を巡る天狗党関連史跡ウォーキングに参加してきました。NHK大河ドラマ「青天を衝け」で津田寛治さん演じる武田耕雲斎の最期が描かれていた事も記憶に新しい7月、一般募集の17日（土）・24日（土）、そして会員向けに行われた18日（日）・25日（日）の史跡ウォーキング4回とも多くの方たちが参加されたとお聞きし天狗党の人気が伺い知れる結果ではないかと感じています。

さて、肝心の見学行程は大河ドラマで話題の渋沢栄一の従兄・成一郎がこの時期、一橋慶喜の部下として働いており天狗党と間違えられ捕らえられたなどのあまり知られていない天狗党関連エピソードも交えて、市立博物館で特集されている展示物「天狗党～武田耕雲斎からの手紙～」を見ながら天狗党降伏までの様子を学び、その後徒歩にて→本勝寺→武田耕雲斎等の墓→松原神社（鯡蔵）→永建寺境内経由→川崎町お台場跡→高燈籠を巡る、天狗党関連だけではなく敦賀の江戸時代から明治時代への転換期も想像できるものでありました。

私は本勝寺の桃井住職、本妙寺の古川住職をお誘いして一緒に歩いたのですが、お二人とも新たな発見があったようで、これから供養と共に天狗党への新たな想いを語って頂けるのではないかと期待しています。

また後日、今回の内容や写真を個人SNS上にアップしたところ、水戸藩にゆかりのある方からお礼と共にこの幕末騒動は今でも人々の感情に影響しているとコメントを頂き、水戸から遠く離れた敦賀に住む人々が水戸烈士を語り継いで未来に届ける事が大切なのだと知りました。

【資料紹介】

絵葉書　夏の敦賀港

明治末～大正時代　館蔵

特別展では多くの皆様にご寄贈いただいた画像資料を展示しております。この特別展の元となった前回の平成二十三年度特別展「古写真が語る敦賀」図録（在庫なし）の最後を飾った、今どき言うところの何とも「エモい」絵葉書が、ここに掲載したものです。「夏の敦賀港Harbour Tsuruga」と下にキャプションが入っていますが、メインはお手々を繋いだ二人、敦賀湾とあるも、背景が松原海岸の東側ならば桟橋などが写っていると思うので、今は埋め立てられた福浦湾側でしょうか？それとも湾内のどこか？ただもはや、そこは敦賀湾でなくてもあってもどうでもよい。もうなんかひたすら可愛い。だから絵葉書にしました。という作成者の意図を感じる資料です。

［編集後記］

起承転結の例としてあげられる「糸屋の娘」この糸屋とは屋号が同じ打它家の事ではないかとの説があります。

それはあり得ると支持している私は眼光鋭い打它宗貞の肖像画を拝見する度に、京都の人々を虜にした糸屋姉妹の目力を一度は体験してみたいものだと妄想 しております（笑）

事務局長

博物館友の会だより96号

令和３年９月１日発行

発行　敦賀市立博物館友の会

事務局　敦賀市相生町７－８

TEL 0770-25-7033

FAX 0770-47-6131

E-MAIL museum@ton21.ne.jp